

京都哲學會發會四十周年記念

京都哲學會公開講演會記事

昭和三十一年度の京都哲學會公開講演會は、學會發足四十年記念行事、並びに京都大學文學部創立五十周年記念への参加行事として、十一月二十四日(土)午後一時半より、文學部第一教室において、園原太郎教授司會のもとに左記の如く行はれた(聴衆約三百名)

一、植田 壽藏氏(京都大學名譽教授) 回 顧

一、高坂 正顯氏(京都大學教員) 歐米哲學界の印象

一、矢田部達郎氏(京都大學教授) 心理テストについて

終了後樂友會館に於て、高坂、矢田部兩氏を圍み晚餐を共にしつつ九時過ぎまで敬談した。なほ右の三講演の内容は本號にすべて若くはその一部を収録する所である。

又右と並行して行はれた文學部五十周年記念行事中の公開講演會には、哲學科からは「ギリシヤ人と歴史」と題して田中美知太郎教授が(十一月二十四日(土)午後六時より、於毎日新聞社ホール(京都))、「妻の地位」と題して白井二尙教授が(十一月二十五日(日)午後一時より、於朝日新聞社ホール(大阪))講演せられた。

矢田部達郎教授停年講義

停年により昭和三十一年十月二十四日限り文學部を退職せらるゝことになつた心理學擔當の矢田部達郎教授の停年講義は、「思考の心理」と題して昭和三十一年九月二十六日(水)午後一時より文學部一番教室で行はれた。

京都大學文學部哲學科卒業論文題目

——昭和三十三年三月——

哲學專攻

學士 太田 早苗 The World for Individual and Social

Human Being (言語の始源的相に於ける

考察より)

川村 榮助 カントの先驗的統覺について

訓綱 曄雄 カントの實踐的自我

常俊宗三郎 先驗的統覺について

西谷 裕作 單子と世界について

濱田 貞時 意識と自己意識

森 峯雄 へーゲルの精神現象學に於ける感覺及び知

覺に就いて

山本 昌男 意識のノエシス・ノエマ的構造

青木 隆嘉 カント哲學に於ける自然・自我及び自由

大田 章夫 先驗的演繹

修士

戸田 賢 ハイデッガーの研究

西洋哲學史專攻

學士 長末 博 デカルトの道德論

修士 河井 眞 ソピステス篇の *ta parrhesias* の解釋をめぐりて

種山 恭子 *Xoipa — Platon* の *Triados* に於ける *receptacle* の問題

村川 滿 アウグスティヌスにおける *Civitas Dei* の概念について

印度哲學史專攻

修士 中祖 一誠 ウパニシャッド文獻に於けるアートマン思想の成立に就いて

支那哲學史專攻

修士 鈴木 茂 孟子における人間論の展開

——「耳目之官」と「心之官」——

心理學專攻

學士 井上 和子 幼児のロールシャッハ反應

石田 稔子 集團内の地位認知による安定感の實驗的研究

上芝 功博 無解決事態が後の課題解決に及ぼす効果について

宇地井美智子 概念の發達過程に關する實驗的研究

大石 健 集團構造に於ける地位と意見及び行動との關係

岡武 俊輔 寮生活における適應について

木戸 孝之 圖形抽出の發達の研究

高田 登 眼險條件反射に於ける「系」の混亂について

名倉啓太郎 反應時間にみられる繼時効果について

中西 啓子 兒童に於ける遠近判断の特質

根本 則明 學習材料の系が言語學習に及ぼす影響について

原口 幹雄 言語學習における *Repair* 實驗

——類似度の移入及び後退作用に及ぼす影響——

森 弘 目標並びに出發點勾配の汎化の問題

——白ねずみを使つて——

池田 進 視覺對象の定位

岡野 正男 學級集團の研究——小學校四年の一例——

鳥居 直隆 視覺場と *Stray Light*

倫理學專攻

修士 瀧 惠秀 カントの國家觀

森下 利明 貝原益軒と宋學

美學美術史專攻

學士 秋野癸巨矢 想像力の問題

井尻 益郎 美の成立に於ける「我」の問題

大久保 豊 文藝と繪畫の境界について

——*Lessing* 著 (*Laokoon*) を中心として——

多田 光一 藝術批評について

馬場左多子 フォルムについて

帆足 正規 幽玄についての一考察

—能の概念の成立—

修士 阿部 弘 日本古代美術の形成

鈴木 健二 北方ルネサンスの寫實主義の成立における

Van Eyck 兄弟の役割

新田 博衛 美的感情について

社會學專攻

學士 石橋 隆 知識社會學に於けるイデオロギーの問題

谷口 正治 ナチスの抬頭とその背景

箔本 武雄 マッキイバー國家論の發展

光永 博行 産業經營體に於ける人間關係の研究

宮川 清水 パーソナリティーの社會的基礎

エノハ・アマング 村落の發展

シャフィウデン・シャリフ 相互扶助の發達

修士 會田 彰 英國近代階級の變遷

口羽 益生 社會分化の研究

鹽原 勉 近代官僚制の構造

高島 昌鎬 近代國家本質論の展開

——マッキイバー、ラスキーの所論に據りながら——

吉田 民人 社會關係と社會組織

——行為の觀點からの一考察——

學士 竹内 維茂 信仰に於ける呼應的構造

藤田 雅延 キエルクゴールに於ける不安の概念

淺野 利昭 スピノザに於ける時と永遠

池田 隆正 Zarathustra の歌 „Lust ist tiefer noch

als Herzeleid.“

河波 昌 カントの理性に於ける神の内在と超越につ

いて

松塚 豊茂 宗教的實存に於ける思惟と直觀

松山 康國 否定性の構造

——キエルクゴールに即して——

基督教學專攻

學士 水垣 涉 使徒行傳の資料について

新着外國雜誌所載論文一覽

—哲 學—

JOURNAL OF THE HISTORY OF IDEAS, Vol. XVIII, No. 2, April 1957.

Mazzeo, Joseph A.; Dante's Conception of Love.

Nauert, Charles G.; Magic and Skepticism in Agrappa.

Bracken, Harry M.; Andrew Baxter, Critic of Berkeley.

Toulmin, S. E.; Crucial Experiments: Priestley and dav-

oliver.

JOURNAL OF THE HISTORY OF IDEAS, Vol. XVII,

No. 4, Oct. 1956.

Macleay, James Fulton; Popular Anticlericalism in Puritan

Revolt.

Rowbotham, Arnold H.; Jesuit Figurists and 18th-Century

Religion.

Hurlbut III, R. H.; David Hume and Scientific Theism.

Hay, William H.; Paul Carus : Philosophy on the Frontier.

Wolfson, Philip J.; Friedrich Meinecke (1862—1954) PHILOSOPHY, Vol. XXXII, No. 120, Jan 1957.

Smith, N. Kemp; Fear: Its Nature and Diverse Uses.

Hardie, W. F. R.; My own Free Will

Harland-Swann, J.; Knowing Involves Deciding.

Haré, R.; Dissolving the "Problema" of Induction.

Ridiche, A. D.; Discussion: Could Machines be made to Think?

MIND, Vol. LXVI, No. 262, April, 1957.

Donagan, Alan: Explanation of History.

Xenakis, Jason: Plato on Statement and Truth-Value.

Brown, Norman; Sense-data and Material Objects.

Mfinkus-Benes, P.: The Psychological Present.

Willis, Richard: The Phenomenalist Theory of the World.

THE PHILOSOPHICAL REVIEW, Vol. LXVI, No. 2, April 1957.

Vendler, Zeno: Verbs and Times.

Fleming, Noel: Recognizing and Seeing As.

White, Alan R.: On Claiming to Know.

Gass, William H.: The Case of the Obliging Stranger. PHILOSOPHY AND PHENOMENOLOGICAL RESEARCH, Vol. XVII, No. 2, Decem. 1956.

McKeon, Richard; Dialogue and Controversy in Philosophy.

Spiegelberg, Herbert; Husserl's and Peirce's Phenomenologies: Coincidence or Interaction.

Moser, Shia; Some Remarks about Imperatives.

【以下次號掲載】

會 告

今回都合により弘文堂印刷所(京都)が閉鎖せられましたので、「哲學研究」の印刷は爾後中央製本印刷(東京)で行なうに變更を見ました。従つて當哲學會の振替口座番號も「東京五三九〇九番」となります。右引繼のため發行に相當の遅延を見ましたが、切替が漸次軌道に乗ればこの遅滞を解消して月刊の立前に復歸する豫定です。會員各位の御諒解と今後一層の御支援をお願い致します。

京都哲學會

告 白 文 論 號 次

歴史と質存……………ゲルハルト・クナウス

西洋哲學と印度思想……………スワミ・アゲーハーナン  
———「二つの比較的研究」———  
ダ・バラテイ

フイヒテに於ける自我(完)……………大 峯 顯

ムルティ教授の近著……………長 尾 雅 人